

## 財団法人南北海道学術振興財団の概要

- 設立目的 南北海道地域における学術研究の振興による人材育成、および地域の学術、教育、文化、産業の発展に寄与すること。
- 事業内容 情報科学を中心とする学術研究・交流支援事業、学術研究成果の普及、および科学技術の啓発事業。
- 基本財産 3億4,120万円

## 役員名簿 [平成23年3月現在]

役職	氏名	備考
理事長	廣中平祐	(財)数理科学振興会理事長
副理事長	山崎文雄	(財)北海道国際交流センター代表理事
副理事長	多賀谷智	函館市教育委員会教育長
理事	岩熊敏夫	函館工業高等専門学校長
理事	嵯峨直恒	北海道大学大学院水産科学研究院院長
理事	三浦汀介	(財)函館地域産業振興財団副理事長
理事	櫻井健治	函館商工会議所常務理事
理事	小柏忠久	函館市副市長
監事	井上守	井上守税理士事務所長
監事	河村隆平	函館商工会議所産学官連携促進委員会委員長
評議員	新木秀幸	檜山管内教育委員会連絡協議会教育長部会長
評議員	飯田隆一	檜山管内商工会連合会会長
評議員	田中健一	渡島町村教育委員会教育長会会長
評議員	木元護	渡島管内商工会連合会会長
評議員	中野拓	函館青年会議所副理事長
評議員	穴戸雄一	函館市文化団体協議会会長
評議員	中島栄一	南北海道創才教育推進会会長
評議員	山口道雄	北海道高等学校PTA連合会道南支部顧問
顧問	西尾正範	函館市長
顧問	高谷寿峰	北斗市長
顧問	寺島光一郎	檜山町村会会長

## 平成21年度の収支決算

収入の部		支出の部	
科目	決算額	科目	決算額
基本財産運用収入	3,225,114	事業費	7,934,700
特定資産運用収入	452,987	管理費	369,446
会費収入	115,000	予備費	0
雑収入	0	当期支出合計(C)	8,304,146
特定資産取崩収入	5,500,000	当期収支差額(A)-(C)	988,955
当期収入合計(A)	9,293,101	次期繰越収支差額(B)-(C)	1,235,877
前期繰越収支差額	246,922		
収入合計(B)	9,540,023		

(単位:円)

## 賛助会員募集

財団法人南北海道学術振興財団の事業趣旨をご理解いただき、ご支援をいただきたく、賛助会員を随時募集しております。

賛助会員へは、財団が行う各種事業のご案内の送付や、財団の会報の無料送付などをさせていただきます。年会費は、法人会員:20,000円、個人会員:5,000円となっております。どなたでも会員になることができます。

会員申込やお問合せは、事務局までご連絡下さい。

## 財団法人

# 南北海道

# 学術振興財団ニュース

第11号

平成23年3月発行

南北海道学術振興財団は、南北海道地域での学術研究の振興を図り、科学技術の進展を担う人材の育成と地域の学術、教育、文化、産業の発展のために活動しています。

人と科学の未来のために

Human  
&  
Science



サイエンスライブ2010  
[ビールを科学し、JAZZを味わう]

## 平成22年度の実施事業

### 1 学術研究および学術交流の支援にかかわる事業

#### ■研究費助成

道南圏の大学等における先端的な学術研究に対し、1事業につき100万円を上限として助成しました。

- 「学校教育支援のICT活用プログラムモデルの開発」  
…函館大学専任講師 金山 健一
- 「北海道海洋微生物ゲノム情報パークの構築：無脊椎動物に共生する微生物のデータベース化」  
…北海道大学大学院水産科学研究院准教授 中川 聡

#### ■学会等参加経費助成

道南圏の大学等の教員が行う海外の学会への参加、視察に対し、1事業につき20万円を上限として助成しました。

- 「国際木質構造学会議(WCTE2010)への参加・発表」  
…函館工業高等専門学校准教授 平沢 秀之
- 「国際会議SUTC/UMC2010:災害時センサネットワークの研究発表」  
…函館工業高等専門学校教授 藤原 孝洋

#### ■留学経費助成

道南圏の大学等の学生、大学院生が行う海外への留学に対し、1事業につき30万円を上限として助成しました。

- 「中国海洋大学への留学」  
…北海道大学水産学部 清田 純平

※申請時の役職名を記載しています。共同研究は、研究代表者名を記載しています。

### 2 学術研究成果の普及および科学技術の啓発にかかわる事業

#### ■情報科学セミナー開催

- サイエンスライブ2010「ビールを科学し、JAZZを味わう」

※はこだて国際科学祭2010のプログラムとして開催  
サッポロビール株式会社と函館市と共催で、実際に商品開発にも役立っている「味覚センサー」「コク・キレセンサー」などの結果と、会場の皆様に試飲いただいた味覚テストの結果を比較しながら、ビールを科学的に解説しました。また、後半は、プロジャズシンガーMIZUHOさんのライブと共に、美味しいビールを楽しみました。



開催日 平成22年8月21日(土)  
会場 五稜郭タワー アトリウム  
出演者 金田弘拳氏(サッポロホールディングス(株)経営戦略部食品開発インキュベーションセンター長)  
MIZUHO氏(プロジャズシンガー)

参加者 150名

参加者の声

- ・ビールの奥深さが分かり、とても勉強になりました。
- ・話がとても聞きやすく面白かったです。科学をネタに飲めるなんてサイコー!
- ・科学と楽しさ(お酒・音楽)の融合がとてもよかったです。
- ・科学祭自体は一般の人にも興味を持てる内容で、大変すばらしいと思います。
- ・興味・関心を刺激するいいイベントだと思います。ずっと続けてほしいと願っています。

#### ■研究事業を振り返って

北海道大学大学院水産科学研究院准教授 中川 聡  
研究テーマ 「北海道海洋微生物ゲノム情報パークの構築：無脊椎動物に共生する微生物のデータベース化」

北海道の沿岸域に棲息する無脊椎動物は、生物資源・水産資源・研究素材・文化的資源として極めて重要ですが、近年の埋め立て開発や気候変動等の影響を受け、その科学的開発を待たずして著しく損なわれつつあります。

特に、それらの無脊椎動物の共生微生物については、群集構造・多様性・生理機能・無脊椎動物との相互作用など、ほとんど研究されていなかったことから、北海道学術振興財団の助成を受けて実施した研究では、北海道の沿岸域に棲息する海洋性無脊椎動物を対象に、その共生微生物の多様性・群集構造を解析し、それらの知見を集約した世界初のデータベースを構築しようとしたものです。



これまでの研究においては、北海道の沿岸域に棲息する様々な海洋性無脊椎動物を採取し、各組織に存在する微生物の多様性や群集構造を解析してきました。その過程において、特異な微生物系統群Epsilonproteobacteriaのほぼ普遍的な存在を見だしています。



一般的に、棘皮動物の体腔液には高い抗菌活性が見られますが、存在する微生物群集の10%以上が本系統群に属していました。本微生物群は宿主生物の生体防御や代謝産物の解毒において重要な役割を担っている可能性が高く、新規生理活性物質探索の基盤、水産資源管理の新指針、さらには環境評価の新機軸としての応用開発が期待できます。

質探索の基盤、水産資源管理の新指針、さらには環境評価の新機軸としての応用開発が期待できます。